

対話と共生：創出すべき 21 世紀文明の構成原理

当研究所は、人間の新しい生き方の実践的な研究を基本理念として「21 世紀文明の創出」を研究目標に掲げている。このきわめて大きな目標に正面から挑戦するために、発足以来 3ヶ年を一期とする研究プログラムを構築し、4 期に亘って研究成果を積み上げ、連続性のある研究活動を展開してきた。

第 1 期研究プログラム（2001 年度～2004 年度）においては、「現代文明の展開と社会文化的多様性」をコアプロジェクトとして掲げ、現代文明研究の広さと、深度をさぐる、すなわち当研究所としての現代文明を解明する視座を確定することを目指した。その際明らかになったことは、現代文明が、グローバル化のもとでフラットな地球社会が成立するという理解では到底たどり着けない多様性と異相性を持つという認識であった。

第 2 期研究プログラム（2005 年度～2007 年度）はそのグローバル化の持つ意味を、人間の生活の変化という観点からとらえることとし、「グローバル化と生活世界の変容に関する総合的研究」とした。その結果、地域研究と国際的な研究連携を進めることで、現代文明の多様性と異相性の認識にもう一つの奥行きを与えることができた。1 期および 2 期の研究成果は、当研究所編集（監修）の『文明への視座』東海大学出版会、2006 年、『日韓の共通認識』（東海大学出版会、2007 年）に結実している。

第 3 期研究プログラム（2008 年度～2010 年度）は現代文明の多様性と異相性の認識を深めた前 2 期の研究成果を受けて、21 世紀文明のあり方に対する積極的提言を目指すこととし、その視点を「対話と共生」を原理とする新しい社会の構築」に置いた。本学の中期目標（2009 年度～2013 年度）における研究の目標には、「持続可能な社会の実現のため、研究の重点化を図り、戦略的な研究分野を確立する」と謳われている。本研究所は、グローバル化のもとで持続可能性のある社会を築いていくためには、新たな構成原理として「対話と共生」のもとに現代文明が打ち立てられるべきであると考え、そのあり方を提言していくこととしたものである。その成果は、2011 年 3 月に出版された本研究所編『＜ありうべき世界＞へのパースペクティブ』（東海大学出版会）に結実させることができた。

第 4 期研究プログラムは、上記の 3 期にわたる研究の積み重ねのうえに 2011 年度から開始した。テーマを「対話と共生：創出すべき 21 世紀文明の構成原理」として、第 3 期から打ち出した「対話と共生」を原理とする新しい社会の構築」をさらに進めることとした。最終年度に当たる、2013 年度は、プロジェクトベースで研究体制を組み替え、コアプロジェクト 1「アイデンティティの多様性と共生」、コアプロジェクト 2「グローバル化下での社会システムの変容と再構築」に加えて、東日本大震災の発生以来、単年度の特別プロジェクトとして 2 カ年にわたって行ってきた震災復興に関わる研究プロジェクトをコアプロジェクト 3「震災復興と文明」としてコアプロジェクトに加えた。

また、個別プロジェクトは、研究所員を中心に展開する各コアプロジェクトを補完するものと位置づけ、コアプロジェクトのテーマに直接関わる研究を広く学内の研究者から公募し、審査のうえで採択し、研究員として本研究所の研究活動に参加させることとした。特に、本研究所の設置理念から、広い研

究分野から文明研究を志す研究者の層を厚くしていくために、現有の研究所員と重ならない研究分野の若手の研究者の公募プロジェクトも奨励することとした。また、本研究所の設置理念からも、ディシプリンを超えた研究者の集まる研究会を毎月開催して、研究状況の報告をすることを条件とすることで、ややもすると自分の研究領域に閉じこもって研究成果を挙げることに傾きがちな若手研究者に、広い視点をもって研究に取り組むことを促し、研究会を公開とすることによって、併せて研究所員にとどまらず広く学内外の研究者の研究交流を図って研究成果を共有して、最終年度の研究成果につなげることを目指した。『文明』18号は、この第4期プログラムにおける各所員・研究員の研究報告の特集である。

文明研究所所長
川野辺裕幸